

2020 年度

事業計画書

(2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで)



2020 年 3 月 25 日

学校法人 帝塚山学院

目 次

2020年度の主要な事業計画

I	はじめに	 P 1
II	学校法人帝塚山学院の中期計画	
[1]	中期計画の全体図	 P 4
III	2020年度 帝塚山学院の事業計画の骨子	
[1]	法人本部	 P 5
[2]	幼稚園	 P 8
[3]	小学校	 P 11
[4]	泉ヶ丘中学校高等学校	 P 14
[5]	中学校高等学校	 P 18
[6]	大学・大学院	 P 20
IV	2020年度 予算の概要	
[1]	資金収支計算書（活動区分資金収支計算書）	 P 26
[2]	事業活動収支計算書	 P 27
[3]	学生・生徒等数推移表（2013年度～2020年度）	 P 28

2020年度（令和2年度）の主要な事業計画

I はじめに

2020年度（令和2年度）は、私立学校を取り巻く環境は大きく変わろうとしており、今まで以上の厳しい状況が予想されます。

一つ目には、予想を上回る少子化の進行です。厚生労働省が昨年12月24日発表した2019年の人口動態統計の年間推計で、日本人の国内出生数は86万4千人となり、2017年4月の国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計（日本人人口ベース）では、出生数が90万人を割り込むのは2020年、86万人台となるのは2021年と予測されていたため、減少ペースは2年早まっており、少子化のスピードは想定以上となっています。ただ昨年も申し上げましたが、少子化の影響は私学の定員充足の点において、おしなべて及ぶものではなく、二極化となって表れるものと考えられます。そのような状況下において、本学院は生き残るために役員・教職員全員が知恵を絞り、汗をかいて改革に精進しているところであります。

2020年度の本学院の入学者募集状況におきましては、現時点ですべての試験結果はでておりませんが、昨年度に引き続き幼稚園から大学院まですべての設置校が募集入学定員をほぼ充足できる状況と推測しております。これは、各学校の入学者獲得への募集活動の努力が実を結んだことと、各学校の教育面における取組が社会からの一定の評価や期待を得ていることの成果と考えます。とは言え、学院全体としての改革はまだ途上にあり、一層の推進が必要です。

二つ目は、昨年は学校法人にとって多くの重要な政策が提示され、今年度施行となります。これらの対応については下記の通りです。

- ① 学校教育法、並びに私立学校法等の一部改正（令和2年4月1日施行）、特に私立学校法の改正については、学校法人の役員・評議員の職務・責任の明確化等ガバナンスの強化、中期計画の策定や財務書類等の情報公表を中心として改正されました。本法人も改正に関わる寄附行為の変更の認可申請を行うだけでなく、それに伴う各規程の改定を行い、今年度においては専決事項の見直し等の諸規程の改廃をしてまいります。
- ② 更に、「大学等における修学の支援に関する法律」（令和2年4月1日施行）が

成立し、住民税非課税世帯及びこれに準じる世帯について、授業料減免制度と給付型奨学金の拡充が行われるようになります。本学院大学も機関要件の確認申請を行い、要件を満たしているため対象となっております。

- ③ 同一労働同一賃金に向けて、働き方改革関連法が改正され、「短時間労働者及び有期雇用労働者の雇用管理の改善等に関する法律」（令和２年４月１日施行）については、現在改正法に対応すべく各関係団体へ協議・説明を行い、規程の改定を検討し施行日までに整備いたします。

三つ目は、今年度は大学キャンパス統合事業を完結しなければならない本法人にとっても重要な年でもあります

この事業は、学生が何を学び、身に付けることができるかを明確にし、学修の成果が実感できる教育、所謂「学修者本位の教育への転換」を行っていく教育の質保証実現を主眼としています。

このため、今回の泉ヶ丘キャンパス改修工事の内容については、

- ①キャンパス集約への対応、及び学習環境の再整備
- ②学生満足度の向上
- ③LCC（ライフサイクルコスト）向上・環境配慮
- ④バリアフリー・ユニバーサルデザイン

学生目線の改修が中心となっています。

上記の改修工事は、改修工期期間が短く、学生の在校期間も実施しなければならないタイトな日程となっていますが、学生・教職員等の安全を第一に考え実施してまいりたいと考えます。

また、２０２０年度は学院創立１００周年にあたる２０１６年度を起点とする中期計画（２０１６年度から２０２０年度まで）の最終年度となりますので、全ての計画が完遂することが求められます。同時にその成果の上にたって２０２１年度を起点とする新たな中期計画（２０２１年度から２０２５年度まで）を策定する年度でもあります。

今年度の事業計画作成にあたっては、中期計画における各施策の進捗状況の確認と課題の洗い出しを行い、事業計画の各施策を必要に応じて計画修正を行ったうえで、２０２０年度予算編成にシンクロさせ実効性を確保しました。

事業計画の中の３つの力の強化について、①教育力の強化 ②組織力の強化につい

ては中期計画に沿って教育の質向上への取組やコンプライアンスの遵守やガバナンス機能の強化により、改善効果が出てきたと確信しております。ただ、財務基盤力の強化については、上記記載の2020年度大学キャンパス統合事業の実施による大学泉ヶ丘キャンパス改修工事費用や大学狭山キャンパス売却による土地、建物等、図書などを一括償却による除却損が発生するため、年度収支は一時的に大幅な赤字を計上する事になります。しかし、2021年度以降大学においては統合メリットが出てくるため収支の改善が図られるものと確信しております。また、大学以外の各学校におきましても財務健全化の為の協議を法人と各学校が定期的に行い、それぞれ毎に改善計画を策定しているところであります。

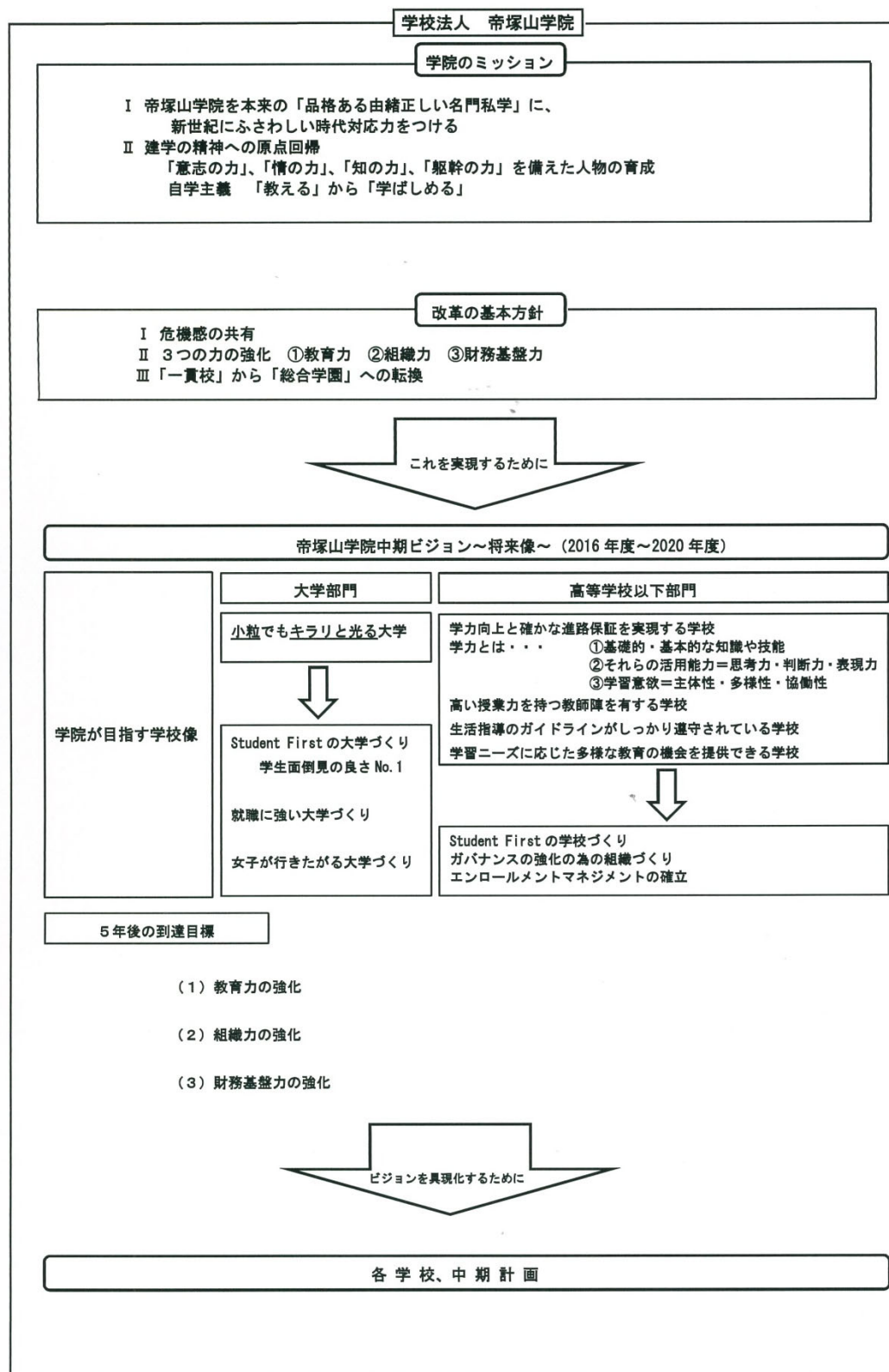
法人および各学校の計画の詳細は、後掲の事業計画に示していますのでご確認ください。

最後に本法人においては、現在の将来予測が極めて困難な時代にあっても、時代の流れに対応しながらこれまで以上に多様性に富んだ教育内容の充実・特色化を図るとともに、安定的な経営基盤を維持して、学校経営を行っていかねばならないと考えています。

今後も理事長や学長・校長、園長のリーダーシップの下で、教職員全体で情報を共有し、教学と経営が一体となって、経営力の強化と経営の透明性向上に努め社会の理解と支援を得られる様、より一層の改革に取り組んでまいります。

Ⅱ 学校法人帝塚山学院の中期計画

[1] 中期計画の全体図



Ⅲ 2020年度 帝塚山学院の事業計画の骨子

〔1〕 法人本部の事業計画

1. 教育力の強化

（1）エンロールメントマネジメントの導入

- ① 各設置校の学生・生徒等カルテ構築への支援
 - ・ 学院全体ネットワーク基盤上でのデータ共有
 - ・ 各種システムのデータ連携推進
 - ・ 2019年度設立 ICT 課による学院 ICT 支援体制強化

（2）ICTを活用した教育の推進

- ・ 各キャンパス 学生・生徒等のネットワーク環境の充実
- ・ 計画的な ICT 投資計画による実施点検・見直し

（3）優秀な人材の採用

高以下教員の採用強化

- ・ 各大学での説明会実施
 - ・ 本学で「教員志望者対象学校説明会」を開催する
- 事務職員の採用強化【新規】
- ・ 専門性の高い人材の採用

2. 組織力の強化

（1）理事長および学校園長のリーダーシップによるガバナンス体制の強化

- ① 理事会・評議員会の機能強化
 - ・ 改正私立学校法施行に伴う改正後寄附行為の円滑な運用【新規】
- ② 2021年度から5ヶ年の第二次中期計画の策定【新規】【重点項目】
- ③ ガバナンス体制確立のための各種規程の改廃および整備【新規】
 - ・ 専決規程の見直し【新規】【重点項目】
- ④ 組織体制の見直し
 - ・ 大学事務局の組織変更【新規】
 - ・ 本部組織の活性化【新規】
 - ・ 住吉校事務局の組織変更【新規】
- ⑤ 円滑なむ校園長選考

(2) コンプライアンス体制・機能の強化

① 監事の役割強化

- ・ 監事監査基準の作成【新規】
- ・ 内部監査体制整備の準備

(3) リスクマネジメント体制の確立

① 学院 ICT 環境の改善

- ・ 学院情報セキュリティポリシーのガイドライン策定
- ・ 情報セキュリティマネジメント体制の構築

② 安否確認システムの円滑な運用

③ ディフェンス広報への対応【新規】

(4) 人事制度の見直し、改善

① 同一労働同一賃金への対応

② 高以下教員の勤務時間管理の徹底と効率化

③ 事務職員の人事評価制度の確立

- ・ 評価者研修の開催

④ 教員の人事評価制度の導入

- ・ 小学校・中学校高等学校教員の評価制度の検討
- ・ 大学教員の評価反映方法の検討
- ・ 幼稚園教員の評価反映方法の検討

(5) 事務組織の円滑な運営

① 法人本部の体制見直し

- ・ 情報システムセクションの新設
- ・ 本部事務局の体制強化

事務職員の異動（ローテーション）を図り、バックアップ体制を確立

② 職員全体を対象とした研修制度の充実

(6) ブランド力向上をめざした広報戦略の策定と実施

① パブリシティ活動

- ・ 各部情報の収集と開示

② ペイドメディア広報

- ・ 既存媒体（朝日新聞、南海電車、阪堺電軌）は継続をベースに出稿パターンや内容の再検討

- ・ 新規媒体出稿の検討
- ③ オウンドメディア広報
 - ・ 「帝塚山学院通信」23号発行
 - ・ 学院総合パンフレット新規作成
募金との連動
 - ・ 学院ホームページの修正検討
在籍生の活躍などを掲載、PCベースからスマホベースデザインへの変更
- ④ デジタル広報
 - ・ ホームページのログ解析とその報告会の実施

(7) 帝塚山ネットワークの構築

- ① ステークホルダー（PTA、同窓会、教育後援会）との関係強化
 - ・ 就職支援会の参加要請活動強化
各同窓会との接触回数増加により紹介企業数の増加
 - ・ 「まつかさ応援募金」協力委員の活性化
各協力委員との接触回数増加により寄付金獲得に加え、学院への要望や意見などを収集
 - ・ 各同窓会会誌への積極関与
募金情報など学院からのメッセージを発信

3. 財務基盤力の強化

(1) 増収策

- ① 学費の計画的改定
- ② 積極的な補助金獲得
 - ・ 経常費補助金等学校向けの補助金に加え、省エネ等各種補助金の調査
- ③ 寄付金の募集強化
 - ・ 寄付金額拡大及び継続寄付システムの実効化

(2) 節減策

- ① 組織の計画的・効率的配置 編成
 - ・ 教職員の年齢構成を考慮した採用を実施し、各設置校ごとの収支バランスの取れた人件費比率を目指すとともに、適正数の採用を実施
- ② 時間外勤務の削減

- ・ 各校園での WG の継続開催
- ③ 経費の節減
 - ・ 入試状況を踏まえた奨学金の見直し
 - ・ 大学キャンパスの統合後の固定費削減計画の立案

(3) 業務の効率化

- ① 全教職員利用のグループウェアの導入計画の立案
 - ・ 大学及び職員が利用しているグループウェアと、高以下各部で利用しているグループウェアを統合
- ② 予算執行申請方法に見直し
 - ・ 経費精算システムの導入を検討
- ③ 人事記録のシステム化
 - ・ 人事記録表、契約書の管理等の適正化
- ④ タイムカード及び時間管理システムの導入
 - ・ 労働時間の客観的な把握及び事務処理の効率化
- ⑤ 年末調整、源泉徴収票の Web 化【新規】

(4) 中長期修繕計画の策定

- ① 中長期修繕計画の策定
 - ・ 住吉キャンパス、泉ヶ丘キャンパスの中長期修繕計画の策定

[2] 幼稚園の事業計画

1. 教育力の強化

(1) 教育内容の改革（教育の質の保証）

- ① 体験型プロジェクト保育の確立
 - ・ 就学までに必要とされる「育てたい 10 の姿」を育む独自プログラムの確立。
 - ・ ICT 機器を利用した教育活動の研究。
(子どもの iPad の利用を研究)
- ② 英語プログラムの継続
 - ・ 年少から年長まで外国人講師による英語指導の継続。
- ③ 運動能力・体力の向上
 - ・ 朝・昼 10 分間の「パワーアップタイム」の継続、2 学期「縄跳びにチ

チャレンジ」の継続

④ 表現力・語彙力の向上

- ・ 絵本の読み聞かせ・貸し出しによる「ことば」の表現力指導。読み聞かせ年間「150冊」を目標。

⑤ しつけ教育の向上

- ・ 挨拶、お礼、お箸・鉛筆・はさみの使い方指導。

⑥ 食育活動の更なる充実

- ・ 「体感する」をテーマに食育プログラムを実施
- ・ 2021年4月自園給食の実施に向けた準備【新規】

⑦ 保育実践カリキュラムの研究

- ・ 脳科学と保育の関連研究を継続
- ・ 「10の姿」を育む保育活動の研究

⑧ 安全教育の充実

- ・ 災害時の単独避難行動教育の充実。緊急地震速報受信システムの活用
避難防災訓練 年間5回実施

(2) 園児支援改革（進路進学について）

① 内部進学率の向上【重点項目】

- ・ 内部進学しない理由や保護者のニーズを調査、伝達

② 進学説明会の時期や回数について小学校と連携し効果的な日程を決定

③ 課外教室の満足度検証

- ・ 現在開講中の5教室の成果を把握

(3) 指導力向上の為の改革

① 園内研修の充実【重点項目】

- ・ 教員による保育実践事例研修を年3回実施
- ・ 園内研修の実施の仕方を研究【新規】

② 教員の救命技能の向上

- ・ 普通救命講習を8月に実施

(4) 家庭との連携・子育て支援

① 家庭の子育て力向上

- ・ 保護者の子育ての悩みや不安の軽減を支援

② 満3歳児以下の子どもの受入れを検討

2. 組織力の強化

(1) 組織・運営基盤の改革

① 教員の強化

- ・ 保育マネジメントの充実【重点項目】
教員の積極的研修への参加の奨励など

② 勤務時間管理システムの実施

- ・ 適切な人員配置を実施

③ 担任ローテーションの実施

- ・ 各学年に専任担任補助の配置

④ 慢性的過重労働・教員不足の解消

- ・ 人材紹介などを積極的に利用し、即戦力となる教員採用を実現
- ・ アルバイト教員有期雇用制度の検討
- ・ 専任教員の適切な配置
各学年に即戦力となる専任教員1名を補助として配置の実現

(2) 人事制度改革

① 人事評価制度導入開始

- ・ 各教員がPDCAサイクルを意識した計画やその実践結果の確認

② 自己点検シートの活用

- ・ 項目別評価とする自己点検シートの活用

3. 財務基盤力の強化

(1) 安定的財政基盤の確立

① 定員の確保【重点項目】

- ・ 魅力のある幼稚園説明会の実施
- ・ 定期的塾訪問及び接触者数の増加を図る
- ・ 転入园児の積極的受入

② 特別協力金納付率の向上

- ・ 新年度のPTAに対する、特別協力金への理解と協力

(2) 本園の教育に共感する家庭、園児の確保

① どんぐりクラブの入会者確保

- ・ クラブ員の増加を年少組定員充足に結びつける
- ② 改革内容の広報
 - ・ 保護者層からの情報収集を活用し、動画など Web 広告の充実強化
- ③ 未就園児対象イベントの見直しと充実
 - ・ 説明会開催回数を増と園庭開放の周知を徹底
- ④ 保護者アンケート（学校評価）満足度アップ
 - ・ 保護者アンケートの満足度の計測及び、アンケート内容に対する P D C A サイクルの定着
- ⑤ 保育環境の充実
 - ・ ICT 機器を利用した保育活動の充実

（３）入試制度の検証・改善

- ① ３年保育受験児の負担軽減
 - ・ どんぐりクラブの周知を継続
 - ・ 定員増にむけて入試改革及び入試日程の検討

（４）キャンパスなどの整備

- ① 質の高い保育環境を提供し、園児募集への直結
 - ・ 保育室など必要箇所の改修及び園庭菜園部分の美化と整備
 - ・ 地震対策を引き続き実施

（５）更なる質の高い教育を提供するため、保育料見直しの検討【新規】【重点項目】

- ① 各学年に補助教員の配置、質の高い教育を安定して提供
 - ・ 個々の園児をきめ細やかに観察指導を実施
 - ・ 教育の積極的研修への参加
 - ・ 保育環境の充実
 - ・ 教員の健康管理、時間管理
 - ・ 職場環境の充実により、離職者の抑制（教員不足の解消）

〔３〕 小学校の事業計画

１．教育力の強化

（目指す学校像）

「主体的」「対話的」「探究的」「創造的」な学習を研究・実践する学校

礼節を重んじる立ち居振る舞いの身に着いた、品格ある「人」の育成をする学校
時代を生き抜き、社会に大きく貢献できる「人間力」を育成する学校

(1) 教員の研修・研鑽強化と教員の質向上

① 教科指導力の向上

- ・ 学力育成の具体化と発展
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するための計画的研修
- ・ シラバスの作成と教材開発
- ・ 併設中学校の入試問題の分析と共有

② 教員の質の向上、担任の学級経営力の向上【重点項目】

(2) 児童の学力向上、進路指導への取り組みの強化

① 学力向上への取組

- ・ 現在ある学力向上に向けた取り組みの強化
- ・ 独自の「基礎学力表」の活用（高学年）【新規】
- ・ 「学力向上教材」の作成と実施（低学年）【新規】
- ・ T A S Cの参加促進と充実

② 学力情報の増加

- ・ 外部模試結果の分析と情報共有
- ・ 進路ガイダンスの内容充実
- ・ 漢字検定の活用強化

(3) 新学習指導要領による新教科の確立と充実

(I C T教育、道徳教育、英語教育)

① I C T教育の実践【重点項目】

- ・ 2021年度の1人1台I C T機器所持実施に向けて準備【新規】
- ・ 教員の実践研究【新規】

② Innovation Studies の確立と発展

③ 「道徳」科目の確立【重点項目】

- ・ 帝塚山学院としての「道徳」科目の策定【新規】

④ 英語教育の強化

- ・ 英語教育の強化・目標設定
英語教育の達成目標の策定
TOEFLPrimary の受験対策の構築
分割指導の強化

⑤ TSS との連携

- ・ 本科英語と TSS の連携強化
- ・ 学院小学校優先・内外定員の明確化
- ・ 実践的英語力の習熟

⑥ キャリア教育【重点項目】

- ・ 「キャリアパスポート」の実施【新規】

⑦ 新科目にも対応する教室整備

- ・ クラス教室の整備

新科目（特に I C T 教育）に対応できるように、教室を長期計画で整備

（４）生活指導の強化と徹底

① 生活指導の強化

- ・ 「人間力」「生活力」を高める指導の体系化・強化
- ・ いじめ防止対策の強化
- ・ 学校生活支援会議や、教員間の連絡による、児童に関する情報共有の徹底
- ・ P T A との連携強化

（５）学校行事の見直しと強化（教育効果、社会状況に留意）

① 各行事の確認と検証・保護者の満足度の向上

２．組織力の強化

（１）組織改革の実施、校務分掌の改編と整備、その周知

① 校務分掌の整備と事務局との連携（管理職）

- ・ 管理職と教員・事務職員の一体運営強化
- ・ 業務必携の作成
- ・ 管理職と教員との面談実施
- ・ 新健康教育部新設【新規】

② 学院幼稚園、学院中高、泉ヶ丘中高との校務運営の連携

- ・ 幼稚園から高等学校までの各部教員との交流・情報交換の機会の設定

③ 児童に対する教員連携強化

- ・ 校務システム「siems」・共有フォルダの発展的活用

（２）勤務時間管理と適材適所に必要な人材確保

① 時間管理

- ・ 出欠確認システムの導入【新規】
- ② 人材の確保と、適材適所の配当【重点項目】
 - ・ 担任の学級経営力の向上
 - ・ 専科制の検証と確保
 - ・ 小学部における人員計画の策定
- ③ 保護者との連携強化
 - ・ 個人懇談の充実
 - ・ P T A集会などの機会に、保護者との連携強化
 - ・ 学校評価アンケート及び塾・習い事調査の実施と分析

3. 財務基盤力の強化

- (1) 定員の充足、確保【重点項目】
 - ① 教育内容の充実を内容とする、積極的広報
 - ② 外部進学者と内部進学者それぞれの目標設定の明確化
 - ③ 保護者との接触機会の増加
 - ④ 募集活動に対するさらなる教員意識の向上
- (2) 外部資金の獲得
 - ① 補助金申請の取り組み強化
- (3) 経費削減
 - ① 法人本部と協働し実施

[4] 泉ヶ丘中学校高等学校の事業計画

1. 教育力の強化

- (1) 進路指導目標 : 「進学指導特色校」としての基盤整備【重点項目】
 - ① 生徒の第一志望合格にこだわる組織づくり
 - ・ 進路指導部の組織力強化
 - ・ 管理職・進路部・高校学年団の三位一体の進路情報の共有と迅速なる生徒対応
 - ・ 教職員全体への本校進路指導に対する理解活動

(進路指導事例検討研修会の実施)

- ② 指定校推薦基準の厳格化
 - ・ 指定校推薦で進学した卒業生への現状把握と指導
- ③ 新時代の入試への対応
 - ・ オンライン英会話と国際教養部の戦力化
 - ・ 総合学習としての SDG s 導入 (中学) 【新規】
 - ・ 新テストを意識した本校入試問題の作成

(2) 学習指導：学びを通じて、より高みを目指す集団づくり

- ① 理数科教育の充実
 - ・ 柔軟なコース変更
 - ・ 模試の定点観測と指導内容の修正
- ② ICT を活用した教育活動、家庭との連携の充実
 - ・ クラッシー活用のさらなる活性化
 - ・ 生徒用端末活用の促進
- ③ 英語 4 技能の習得
 - ・ 国際教養部を中心とした組織的な活動
 - ・ 約 3 ヶ月間のターム留学を実施する。(協定校 50 校に 1 名ずつの留학생徒を派遣) 【新規】
 - ・ 英語 4 技能習得に向けて生徒のモチベーションアップのためのイベントを系統的に実施する。
 - ・ 外国人講師のマネジメント強化と戦力化

(3) 生徒指導：社会に出るための訓練の場としての学校づくり

- ① 生徒指導を通じた学校全般の規範作り
 - ・ 中学校の全校朝礼や HR に各クラスで注意喚起,指導の徹底 【重点項目】
 - ・ 登下校指導の着実な実施
 - ・ マナー指導の実施
 - ・ 服装指導の徹底
 - ・ 組織的対応の方法確立
 - ・ 外部講師による研修会、講話会 (いじめ・SNS・薬物等) の実施
 - ・ Stop it の活用によるいじめ等の早期発見と注意
- ② 生徒の安全対策の徹底
 - ・ 登下校の安全管理のための「ミマモルメ」のさらなる活用
 - ・ クラッシー導入による保護者との連携強化

- ・ 昼休みを含めた休み時間と放課後の生徒の安全管理
- (4) 特別活動：集団活動を通じた「協調性」「社会性」の涵養
- ① 子どもたちの活動が外に伝わる、開かれた学校づくり
 - ・ ホームページの更新頻度と内容の精査
 - ・ 保護者参観のさらなる充実
 - ・ PTA 活動の活性化
 - ・ 文化祭の中高分離実施
 - ・ SNS による高品質な情報の発信
 - ② 人間性の涵養に資する特別活動
 - ・ 文武両道の理想の追求
 - ・ 管弦楽部の強化，ジャズ班の創設
 - ・ 中学校合唱コンクールを実施（@フェニーチェ）
 - ・ 「ココロの学校」を PTA と共催
 - ・ 芸術鑑賞会（ゴスペル鑑賞）を実施
- (5) その他：感動・夢の創出を目指して
- ① キャリア教育の充実と大学見学、人権教育の活性化
 - ・ リアリティを伴う、心に響く人権教育の実践
 - ・ キャリア教育の抜本的見直し
 - ・ 生徒会活動の活性化【重点項目】

2. 組織力の強化

- (1) ガバナンスの強化：教員の一体化
- ① 時代変化に見合った不易流行の明確な判断
 - ・ 管理職及び運営会議メンバーのベクトルの統一
 - ・ 上記で議論され、決定した事案を教職員全体に丁寧に説明し、理解と協力を促す
 - ・ 開かれた校長室の実現
 - ② 教職員の職場での安全管理のための勤務時間管理
 - ・ 教員時間管理に基づく、勤務バランスの調整
 - ・ 行事予定とそれに基づく勤務要請

(2) 組織力強化：物事決定の手順の明確化

① 会議の活性化、見直し

- ・ 会議の出欠確認と記録
- ・ 朝礼（毎日 8 時 15 分）による学年連携の強化
- ・ 会議の定期開催と内容の共有

管理職会議（週 2 回）、運営会議（毎週水曜日 3 限）、教職員会議（第 2 水曜日）、各分掌会議（月 1 回）、中高各部会（週 1 回）、担任会（毎週）、教科会（月 1 回）

- ・ 総務部を保健部と企画部に分離し業務効率化を図る
- ・ 教員の働き方改革を目指し、会議の効率化と回数削減【新規】

② 教科主任との連携強化

- ・ 2020 年度より教科主任も運営会議に加わり、学校方針策定に参画

③ 学校協議会の充実

- ・ 5 月、10 月、3 月 令和 2 年年度事業計画の総括と意見聴取

④ 教員面談を通じ、教員の強みが発揮できる適材適所の人材活用【重点項目】

- ・ 4・5 月：全教職員へのヒアリング

（2019 年度アンケート結果を参考に）

- ・ 7・8 月：次年度採用計画
- ・ 9・10 月：必要に応じ、再ヒアリングの実施
- ・ 9 月：授業アンケート実施
- ・ 11・12 月：次年度教員配置の原案作成
- ・ 12 月：分掌長・学年主任の決定
- ・ 1 月：担任団の決定

⑤ 若手教員（20 代～40 代）の戦力化

- ・ 校長主宰の若手教員との勉強会を実施（「夢工房 2020」）

3. 財務基盤力の強化

(1) 入学生確保

① レベルを下げずに生徒を獲得する

- ・ 中学入試については広域からの志願者増に向けての営業活動を活発化させ質の向上につとめる【重点項目】
- ・ 高校入試については公立上位校の併願校としての認知度を上げるための基準設定と営業活動を行う【重点項目】

- ・ インターネット広告等を用いて効率良く広域への広報を行う
- ② 職員に対する仕事内容の明確化と成果検証
- ・ 職員の担当上司を明確にし、上司に対する日報の提出を義務付ける
 - ・ 定期的な管理職面談を設ける

(2) 外部資金確保

- ・ ICT 補助金の確保
- ・ 大阪府教育条件配分補助金の確保
- ・ 大阪府振興補助金の確保

(3) キャンパス整備管理

- ・ 普通教室のエアコン入れ替え
- ・ 体育館樋整備
- ・ 高圧機器取り替え
- ・ 教科室前エアコン設置
- ・ 生徒用 PC 新規購入
- ・ 校務支援システムの更新
- ・ 生徒用下足室アルミマットの取り替え

[5] 中学校高等学校の事業計画

1. 教育力の強化

(1) 生徒学力の向上

- ① エトワール生上位者の外部模試を活用した計画的学力向上
- ② エトワール一期生の国公立合格者を目指す
 - ・ 成績情報を把握し、指導計画を策定
- ③ 英検 2 級取得プログラムを導入し、関学コースの合格率向上
 - ・ 外部検定を活用し、現状を上回る合格率を達成
- ④ コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するための教員研修を実施
 - ・ 教員研修のレベルアップ策として、大学入試共通テストに対応可能な指導方法の模索【重点項目】

(2) 学習環境の増強

- ① 英語教育のさらなる充実を図るため、グローバルラウンジを活用
- ② ラーニングコモンズを活用し、ICT を利用した個別学習の機会を拡大

【新規】

(3) 指導体制の充実

- ① エンロールマネジメントの進展
 - ・ エンロールマネジメント委員会が生徒情報の管理・蓄積を継続
- ② 進路分析会を毎学期実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標の共有化
- ③ シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標設定
 - ・ 次期学習指導要領改訂（2021 年度）に向けた研究の継続

2. 組織力の強化

(1) ガバナンスの強化

- ① 生徒数、教員数にあわせて設置した管理職業務の明確性を持続
 - ・ 副校長と教頭の役割分担の明確性を持続
- ② 勤務時間管理システムの継続
 - ・ 法人本部との協働により業務改善を推進
- ③ 人事考課制度導入への検討と運用開始
 - ・ 教員の働き方を踏まえ、同制度の基準と方向性の検討

(2) 教職協働による組織風土の改革

- ① アドミッションセンターとの連携を強化し、データ分析の精度向上
 - ・ アンケートの集計・分析を検討【重点項目】
- ② 事務機能を強化し、教職協働の促進継続
 - ・ 事務局を幼小と中高に分ける二課制を本格的に始動【重点項目】

(3) 教育環境の整備

- ① 生徒数に対して適正な教室数の確保
 - ・ 特別教室を含めた教室数の検討
 - ・ 第二体育館老朽化への対応【重点項目】
- ② 生徒数に対して適正な専任教員および常勤講師数の確保
 - ・ 今後の生徒数を予測し、専任・常勤数を調整

3. 財務基盤力の強化

(1) 募集強化による予算基盤の安定

- ① 中学での入試行事参加6年生からの実出願年率の着実な上昇
 - ・ 行事の質を担保することで満足度を向上
- ② 高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の着実な上昇

(2) 入試改革による募集力の強化

- ① 新しい入試方式の導入を検討
 - ・ 市場の動向を分析し、新しい入試制度導入が可能かを検討

(3) 外部資金の獲得

- ① 大阪府や文科省等の競争的補助金の獲得
 - ・ 対象項目の検討を進め、順次申請手続きに着手

[6] 大学・大学院の事業計画

1. 教育力の強化

(1) 大学改革計画の策定・実施【重点項目】

- ① キャンパス統合
 - ・ 2021年4月の円滑な授業開始
- ② 教育課程再編
 - ＜基盤教育機構設置による豊かな学びの実現＞【新規】
 - ・ 基盤教育、教学開発に関する企画、実施、評価の遂行
 - ・ 社会連携機構との協働による「カレッジコミュニティ」の拡充と開発
 - ・ テヅカポートフォリオによる学びの振り返りと学修成果に基づく育成方法の明確化
 - ・ 論理能力、情報リテラシー、英語、日本語教育の達成度に応じた補習授業の検討
 - ・ 初年次の大学適応プログラム（入学前教育、リメディアル教育）の改善（実施方法、内容等）
 - ・ 授業改善、教授法、教育評価法などの検討、提案、学内FDの企画実施、アクティブラーニング等の実践的指導

＜新リベラルアーツ学科教育・学習プログラムの実践＞【新規】

- ・ メジャー・マイナー制度を中心に、特色ある学修を展開

＜学科の一体感醸成とFD活動の充実＞

- ・ 教育プログラム運営に関する徹底した議論と活動
- ・ 2回生以降の運営について具体的に計画し、準備
- ・ 学科教員同士が教育方法やスキルを情報交換

＜学科定員を指標とした適正な範囲の募集の実現＞

- ・ 指定校の見直し

(2) Students First の大学づくり（学生面倒見の良さ NO.1）

① 学生の能力に応じた入学前教育の実施

- ・ 基礎学力の定着・学部学科教育への接続・大学生活への期待醸成、仲間作りに向けた各種プログラムの実施と各結果データの入学後学生指導への連動
- ・ テヅカドリルの魅力アップ
- ・ スクーリングファシリテーター研修充実とピアサポーターの育成

② 学生の授業出欠管理の徹底

- ・ システム統合と学習支援システムの更新（C-Learning から WebClass に変更）による履修・出欠データの活用【新規】
- ・ 専任・非常勤講師ともに WebClass を活用した出欠管理と集計

③ 基礎学力の強化と検証

- ・ 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の授業内容の刷新【新規】
- ・ 基盤教育機構と各学科教員との協働による新プログラムの導入
- ・ テヅカポートフォリオを導入し、学生が各科目の修得・ジェネリックスキルの成長等を自己評価
- ・ アセスメントテストの実施と活用【新規】
「テヅカドリル・基礎学力テスト」実施による基礎学力状況把握

④ 成績分布公表による評価の適正化とシラバス内容の改善

④ 担任制(役割と責任の明確化)の継続（退学防止にむけて）

- ・ アドバイザー教員による入学当初からの面談、出席状況・成績を確認及び、必要に応じ各部署等との連携
- ・ 保護者懇談会(1・2回生)の実施

保護者との懇談および学生 大学の情報提供と共有

- ・ テヅカポートフォリオ導入による学習状況の把握【新規】

「テヅカポートフォリオ」における半期ごとの振り返り活動の実施
学修に対する学生の自己評価等を教員が継続的に把握

⑤ 就職支援 NAVI の活用とデータ分析

- ・ 学生の状況を就職支援 NAVI へ集約
- ・ 過去のデータから進路未決定者の理由を分析
- ・ 分析データから就活支援施策のプラン策定および実施

⑥ 食堂、図書館の改善

- ・ E d y 付学生証による配膳待ち時間の削減と食堂売上管理の効率化【新規】
- ・ ワンキャンパス化に伴い、帝塚山学院大学の顔となる特徴的な図書館を実現

⑦ 外部機関等を活用した「社会貢献講座」の企画

- ・ 学生を対象としたセミナー開講

⑧ ワンキャンパス化改修工事に伴う学生の安全の確保

⑨ 各部署、各学科での IR 活動の加速

- ・ 学生ニーズ等の情報収集・分析システムの構築

⑩ 部活動等の活性化

- ・ ヒアリングを実施し、活動の問題、障害などを発見・共有

⑪ 学部・学科再編の検討、実施

- ・ 大学改革第2ステップの具体化

⑫ 4年以内の退学者率改善

- ・ 学生情報の一元化（共有・可視化）及び出席状況の把握と支援の早期化
- ・ 入学前教育プログラムから得た学生データ、面談記録などを就職支援ナビにデータ入力し学生サポートに活用
- ・ 修学支援新制度や本学独自の奨学金制度等による経済的サポート、学生生活満足度調査による、学生ニーズ、改善要望の把握と実現の検討と実施
- ・ 出席状況の把握や半期ごとに面談等による早期支援体制の確立。

⑬ 実質就職率の向上

- ・ 学生特性に応じた就職支援の実施
- ・ 優良企業志望者向けプログラムの実施
- ・ 就活支援対策基本プログラムの実施
- ・ コミュニケーションが苦手な学生支援

⑭ 地域連携事業の推進

- ・ 自治体、地域の企画事業への学生の参加

(3) 教育の質保証

① 教員評価実施

- ・ 教育活動の向上に繋がる評価方法への改善
- ・ 管理職への評価研修会の実施。
- ・ 対面評価の改善による信頼性の向上。

② F D 研修会の内容を明記して定期的の実施

- ・ 専門分野の特性に合わせた学科単位の効果的な FD 実施。
- ・ 学生による FD 活動を支援し、授業改善に学生意見を反映。
- ・ F D 研修の成果の検証。

③ 教員相互の授業参観の実施

2. 組織力の強化

(1) ガバナンスの強化

① 広報組織の強化

- ・ 大学ブランディングの強化
- ・ キービジュアルの制作
- ・ 大学公式サイトや大学案内誌のリニューアルなど

② 組織における権限と責任の明確化【重点項目】

＜学院改革会議・大学部会＞

- ・ 委員会等組織の再編【新規】
- ・ 委員会（担当）数を削減し、運営の見直しと効率化を徹底
- ・ 大学改革の第 2 ステップに向け、指示系統を再整理し、学長会議を決定機関としたガバナンス体制を明確化

③ 大学改革方針に基づくプロジェクトの実施

＜各プロジェクトの検証と評価の実施＞

- ・ 教育課程再編プロジェクトは、新たな 3 ポリシーに基づいた大学プロジェクトの組織の見直しと総括
- ・ 人材育成構想の策定
- ・ 学修成果可視化システム（テヅカポートフォリオ）の初年度運用と教学

マネジメント体制の確立

- ④ 全学方針に基づく運営と PDCA サイクルの実践
 - ・ 中期計画に則った事業運営と認証評価機関の評価基準による自己点検・評価、アセスメント・ポリシーに基づく教学アセスメント実施
- ⑤ I R 担当組織およびエンロールマネジメント体制の確立
 - ・ データを活用した業務改革に向けた、実組織の教学 IR 担当キーマン育成

(2) 大学事務組織の見直し

- ① Students First の大学づくりを目指した組織改編の実行と検証
 - ・ 「中退予防」の所管部署である学生生活課の独立
 - ・ 国の高等教育施策の変化に迅速に対応するため、教学企画センターを設置
 - ・ 2階事務センター(仮称)が 2020 年 4 月末頃竣工
教学企画センター・学生支援センターとキャリアセンターのワンストップサービスの実現
- ② 帝塚山学院大学の将来を担う若手職員の育成
 - ・ 若手職員の私大協会等学外研修の積極的な参加【新規】
- ③ S D 研修会の内容を明記して年 6 回以上実施
 - ・ 実際の業務に応じた、実践的な S D 研修会の実施

3. 財務基盤力の強化

(1) 入学定員 100%の充足【重点項目】

- ① 入学者選抜方法の検証と改善
 - ・ 2020 年度入試の分析・検証を基に、学科・試験区分ごとに入学者目標数を設定し、委員会で常時達成状況を共有
 - ・ A O 入試（総合型選抜）の競争率の向上【新規】
 - ・ 協定校特別推薦の推薦基準と推薦人数の見直し【新規】
 - ・ 競合大学の 2021 年度入試実施状況を調査、分析
本学の 2021 年度入試を評価し 2022 年度に改善を図る
- ② 入学者目標(430 名)の達成
 - ・ 出願受付直前の時期に入試個別相談会を年 2 回実施
 - ・ 学校推薦型選抜・公募制と一般選抜に向けた入試対策講座を実施

- ・ オープンキャンパス参加人数目標値実数の達成（動員目標 1,200 名、うち高校 3 年生 860 名以上。）
- ③ 指定校および高校訪問校の見直しと高校訪問体制の改善、高校訪問者への研修会の実施
 - ・ 対象高校の削減と推薦基準・推薦人数を大幅に修正【新規】
 - ・ 協定校・特別指定校・指定校での入学者における入学金優遇措置の見直し【新規】
 - ・ 高校ランクと出願者・入学者数に基づき、各担当者が訪問回数と入学目標数を設定し年度末に検証する。

（２）外部資金の獲得

① 競争的補助金の獲得

- ・ 私立大学教育研究活性化設備整備補助金の獲得。

（３）人件費の抑制

- ① カリキュラムの見直しによる非常勤講師数の削減
- ② ワンキャンパス化に向けての教職員組織のスリム化

（４）物件費の削減

- ① 予算管理の徹底

[1]資金収支計算書(活動区分資金収支計算書)

(単位:百万円)		2019年度 補正予算 ①	2020年度 当初予算 ②	2019年度補正予算vs2020年度当初予算 差異 ②-①
教育活動資金収支差額	A	△100	△131	△32
教育活動収入	①	6,531	6,416	△115
教育活動支出	②	6,301	6,524	223 2021年度に計画している大学キャンパス統合関連の支出が増加したことによる影響
差引	①-②	230	△108	△338
調整勘定等		△330	△23	307 参考:期末時点の未払金、未収入金等の額の調整
施設設備等活動資金収支差額	B	△746	△1,919	△1,172
施設整備等活動資金収入	①	137	300	163
施設整備等活動資金支出	②	905	2,255	1,350 <2020年度の主な投資予定> 大学泉ヶ丘キャンパス:キャンパス統合に向けての改修工事 住吉キャンパス:空調工事、ICT設備等 泉ヶ丘中高:エアコン取替更新
差引	①-②	△768	△1,955	△1,187
調整勘定等		22	36	14 教職員の増加に伴う人件費の増加
小計	C=A+B	△846	△2,050	△1,204
その他の活動による資金収支差額	D	125	644	520
その他の活動資金収入	①	1,610	1,263	△348
その他の活動資金支出	②	1,486	618	△868 100%以上積立を行っていた退職給与引当特定資産及び学校債引当特定資産について適正残高に調整取崩したこと、及び100周年記念特定資産を取崩したことによる収支の増加
差引	①-②	125	644	520
調整勘定等		0	0	0 参考:期末時点の未払金、未収入金等の額の調整
支払資金の増減額	E=C+D	△721	△1,406	△684
前年度繰越支払資金	F	3,754	3,033	△721
翌年度繰越支払資金	G=E+F	3,033	1,627	△684

[2]事業活動収支計算書

(単位:百万円)		2019年度 補正予算 ①	2020年度 当初予算 ②	2019年度補正予算vs2020年度当初予算 差異 ②-①	
教育活動収入	A	6,536	6,452	-84	
学生生徒等納付金		4,523	4,524	2	
手数料		63	72	9	
寄付金		114	96	-18	
経常費等補助金		1,341	1,331	-10	
付随事業収入		297	290	-6	
雑収入		198	138	-60	退職者減少に伴う、財団からの繰入収入減少
教育活動支出	B	6,839	7,055	216	
人件費		4,265	4,197	-68	
給与等経常的人件費		3,961	4,030	69	教職員の増加に伴う人件費の増加
退職金関連等人件費		304	167	-136	退職給与引当金繰入額の減少
教育研究経費		1,924	2,159	235	大学キャンパス統合に伴う支出の増加 学生数増加に伴う奨学費支出の増加
管理経費		650	699	49	キャンパス統合関連支出の増加
教育活動収支差額	C=A-B	-303	-603	-300	
教育活動外収入	D	25	25	1	
受取利息・配当金		20	21	1	
その他の教育活動外収入		5	5	0	
経常収支差額	E=C+D	-278	-578	-299	
特別収入	F	17	0	-17	
その他の特別収入		17	0	-17	
特別支出	G	25	3,646	3,621	
資産処分差額		25	3,646	3,621	狭山キャンパスの土地建物や図書の除却等
特別収支差額	H=F-G	-8	-3,646	-3,638	
基本金組入前当年度収支差額	I=E+H	-286	-4,224	-3,938	
基本金組入額	J	-455	-1,076	-621	＜2020年度主要な投資予定＞ 大学泉ヶ丘キャンパス改修工事 住吉キャンパス空調更新、防水工事等 高以下教育ネットワーク環境整備
当年度収支差額	K=I+J	-741	-5,299	-4,558	

2020年度当初予算

28

